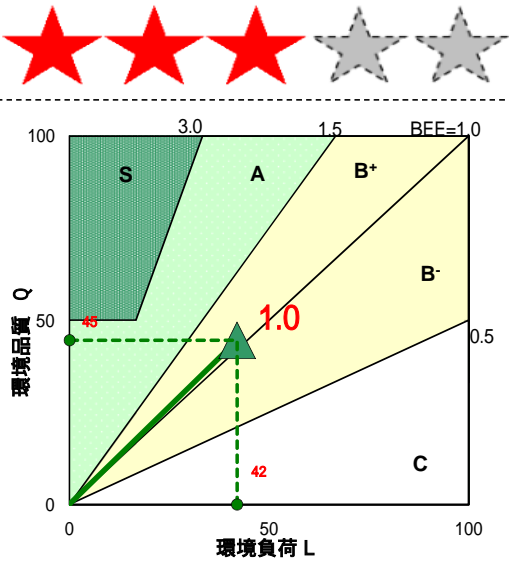


# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

建物概要				外観
建物名称	(仮称)西日本フレッシュネス株式会社	階数	地上2F	
建設地	熊本県上益城郡益城町大字小池字	構造	S造	
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	123 人	
気候区分	地域区分	年間使用時間	3,450 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年12月8日	
敷地面積	9,878 m <sup>2</sup>	作成者		
建築面積	2,288 m <sup>2</sup>	確認日	2014年12月10日	
延床面積	2,260 m <sup>2</sup>	確認者		

## 1 CASBEE評価結果

**建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)**



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE=1.0

**BEE = 1.0**

■ BEE (環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆


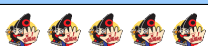




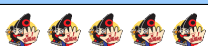




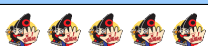




**ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)**



**排出率**

**95%**

## 2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価	評価点																				
	<b>75</b>																				
<p><b>評価点</b></p> <p>熊本県重点評価基準</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満		<table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;"><b>82.1</b></td> </tr> <tr> <td>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;"><b>61.6</b></td> </tr> <tr> <td>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;"><b>75.0</b></td> </tr> <tr> <td>【重点事項4】 循環型社会の実現</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;"><b>76.5</b></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価点は、100点以上が推奨です。</p>	【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	<b>82.1</b>	【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	<b>61.6</b>	【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	<b>75.0</b>	【重点事項4】 循環型社会の実現	<b>76.5</b>
判定値(評価点)	ランク表示																				
100点以上																					
80点以上100点未満																					
60点以上80点未満																					
40点以上60点未満																					
40点未満																					
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	<b>82.1</b>																				
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	<b>61.6</b>																				
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	<b>75.0</b>																				
【重点事項4】 循環型社会の実現	<b>76.5</b>																				

# CASBEE<sup>®</sup> 熊本 《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

使用評価マニュアル：CASBEE-熊本(新築版)2010年評価Ver.2 (SPVBE対応) 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西日本フレッシュ-ス株式会社	階数	地上2F
建設地	熊本県上益城郡益城町大字小池字	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	123 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	3,450 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年12月8日
敷地面積	9,878 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,288 m <sup>2</sup>	確認日	2014年12月10日
延床面積	2,260 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 参照値: 100%  
 建築物の取組み: 95%  
 上記+ 以外の: 95%  
 上記+: 95%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 熊本県重点評価結果

**重点事項総合評価** 評価点 = 75

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 82	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 62
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 77

**重点事項の評価(レーダーチャート)**

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 'ライフサイクルCO<sub>2</sub>'とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-新築(簡易版)2010年追補**  
 (仮称)西日本フレッシュ-ズ株式会社

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応)

評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei\

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
<b>1.1 騒音</b>								
1	室内騒音レベル	-	-	-	-	-	-	-
2	設備騒音対策	-	-	-	-	-	-	-
<b>1.2 遮音</b>								
1	開口部遮音性能	-	-	-	-	-	-	-
2	界壁遮音性能	-	-	-	-	-	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	-	-
<b>1.3 吸音</b>								
<b>2 温熱環境</b>								
<b>2.1 室温制御</b>								
1	室温	-	-	-	-	-	-	-
2	負荷変動・追従制御性	-	-	-	-	-	-	-
3	外皮性能	-	-	-	-	-	-	-
4	ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	-	-
5	温度・湿度制御	-	-	-	-	-	-	-
6	個別制御	-	-	-	-	-	-	-
7	時間外空調に対する配慮	-	-	-	-	-	-	-
8	監視システム	-	-	-	-	-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>								
<b>2.3 空調方式</b>								
<b>3 光・視環境</b>								
<b>3.1 昼光利用</b>								
1	昼光率	-	-	-	-	-	-	-
2	方位別開口	-	-	-	-	-	-	-
3	昼光利用設備	-	-	-	-	-	-	-
<b>3.2 グレア対策</b>								
1	照明器具のグレア	-	-	-	-	-	-	-
2	昼光制御	-	-	-	-	-	-	-
3	映り込み対策	-	-	-	-	-	-	-
<b>3.3 照度</b>								
<b>3.4 照明制御</b>								
<b>4 空気質環境</b>								
<b>4.1 発生源対策</b>								
1	化学汚染物質	-	-	-	-	-	-	-
2	アスベスト対策	-	-	-	-	-	-	-
3	ダニ・カビ等	-	-	-	-	-	-	-
4	レジオネラ対策	-	-	-	-	-	-	-
<b>4.2 換気</b>								
1	換気量	-	-	-	-	-	-	-
2	自然換気性能	-	-	-	-	-	-	-
3	取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	-	-	-
4	給気計画	-	-	-	-	-	-	-
<b>4.3 運用管理</b>								
1	CO <sub>2</sub> の監視	-	-	-	-	-	-	-
2	喫煙の制御	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>			0.43					<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>								
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
1	広さ・収納性	-	-	-	-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-	-	-
3	バリアフリー計画	-	-	-	-	-	-	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>								
1	広さ感・景観	-	-	-	-	-	-	-
2	リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	-	-
3	内装計画	-	-	-	-	-	-	-
<b>1.3 維持管理</b>								
1	維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-
3	衛生管理業務	-	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.52					<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48					
1	耐震性	3.0	0.80					
2	免震・制振性能	3.0	0.20					
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.5</b>	0.33					
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.23					
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.23					
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.09					
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.08					
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上を使用、E不使用	5.0	0.15				
6	主要設備機器の更新必要間隔	屋外キュービクル(20年)	4.0	0.23				

2.3 適切な更新									
2.4 信頼性			3.2	0.19					
1	空調・換気設備		3.0	0.20					
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、井水の利用可能	4.0	0.20					
3	電気設備		3.0	0.20					
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20					
5	通信・情報設備		3.0	0.20					
3 対応性・更新性			3.7	0.48					3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31					
1	階高のゆとり	階高:4.7m	5.0	0.60					
2	空間の形状・自由さ	比率:0.09	5.0	0.40					
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31					
3.3 設備の更新性			3.4	0.38					
1	空調配管の更新性		3.0	0.17					
2	給排水管の更新性		3.0	0.17					
3	電気配線の更新性	構造部材・仕上材を痛めることなく、修繕できる。	5.0	0.11					
4	通信配線の更新性	構造部材・仕上材を痛めることなく、修繕できる。	5.0	0.11					
5	設備機器の更新性		3.0	0.22					
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22					
Q3 室外環境(敷地内)				0.57					2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30					1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30					2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50					
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50					
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー				0.40					3.4
1 建物の熱負荷抑制									
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29					3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50					
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50					
3 設備システムの高効率化		LED照明採用	4.0	0.43					4.0
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	4.0						
		集合住宅の評価	3.0						
4 効率的運用			3.0	0.29					3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50					
4.2	運用管理体制		3.0	0.50					
LR2 資源・マテリアル				0.30					3.3
1 水資源保護			3.4	0.15					3.4
1.1	節水	節水コマ、節水型機器	4.0	0.40					
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60					
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67					
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33					
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63					2.9
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07					
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24					
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20					
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20					
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05					
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	分別可能、交錯しない	5.0	0.24					
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22					4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32					
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.68					
1	消火剤		-	-					
2	発泡剤(断熱材等)	壁・ガラスウール、床:スタイロフォーム	5.0	1.00					
3	冷媒		-	-					
LR3 敷地外環境				0.30					3.1
1 地球温暖化への配慮		高効率設備	3.1	0.33					3.1
2 地域環境への配慮			3.3	0.33					3.3
2.1	大気汚染防止	燃焼機器使用なし	5.0	0.25					
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25					
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25					
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25					
3	交通負荷抑制		3.0	0.25					
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25					
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33					3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40					
1	騒音		3.0	1.00					
2	振動		-	-					
3	悪臭		-	-					
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40					
1	風害の抑制		3.0	0.70					
2	砂塵の抑制		1.0	-					
3	日照障害の抑制		3.0	0.30					
3.3 光害の抑制			3.0	0.20					
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70					
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30					

# CASBEE<sup>®</sup>熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

環境に配慮し、敷地の広さを利用した余裕のある形状とし、シンプルで周辺に影響の少ない建物として計画しました。

### Q1 室内環境

内装材は全て基準をみたく、対象外またはF を採用し化学汚染物質被害を防止します。

### Q2 サービス性能

維持管理の省力化を図るために耐久性の高い屋根・外壁材を採用します。

### Q3 室外環境（敷地内）

周辺環境に配慮した低層でシンプルな建物形状としました。

### LR1 エネルギー

LED照明を採用し、省エネに配慮します。

### LR2 資源・マテリアル

自動水栓を採用し水資源の保護に努めます。

### LR3 敷地外環境

光害対策のために広告用照明の設置を行いません。

### その他

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)西日本フレッシュアース株式会社

評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010\_kmt2011(v3.0)

使用評価マニュアル: CASBEE熊本(新築)2011年版

熊本県重点評価結果				総合評価点	75.5	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>温室効果ガス排出量削減の推進</b>				82.1	0.40	32.84
Q1-2.1.3	外皮性能	0.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	0.0	0.00			
LR1 1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1 2	自然エネルギー利用	3.0	0.29			
LR1 3	設備システムの高効率化	4.0	0.43			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.14			
LR3 2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.14			
<b>安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				61.6	0.20	12.32
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
<b>県の地域資源の有効活用と保全</b>				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
<b>循環型社会の実現</b>				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.5	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

## 評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## 総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

重み係数の総和は、「1」であること。

## 各重点事項( ~ の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

重み係数の総和は、「1」であること。

(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数